



## 伝統処方に西洋医学の知見を取り入れ、独自性の高い製品を開発

薬王製薬株式会社 奈良県磯城郡田原本町

明治20年に創業し、家庭用配置薬の製造からスタートした薬王製薬株式会社。同社は一般医薬品や健康食品の製造を手掛けるなかで、特に生活習慣病の改善・予防に関する製品開発を進め、成長を続けてきた。

近年、自社ブランド「薬王ウォームズ研究所」を展開。血流を良くすることで万病を予防し、健康を増進することをテーマとした製品群を世に送り出している。

古くから守り続けられた伝統処方に、西洋医学の知見を取り入れることによる、独自性豊かな製品開発と、ストーリー性を重視した製品展開で、さらなる飛躍が期待される。

### 会社概要



会社名：薬王製薬株式会社  
所在地：奈良県磯城郡田原本町 245  
電話：0744-33-5888  
FAX：0744-32-3348  
創業：1887（明治20）年  
設立：1947（昭和22）年  
代表者：代表取締役 市川 重則  
資本金：1,000万円  
従業員：45名  
事業内容：医薬品・医薬部外品の製造・販売、健康食品の製造・販売、家庭用配置薬の製造等  
URL：<http://www.yakuo.co.jp/>



衛生管理に細心の注意が払われる工場内（右）。

社屋外観（左）。創業地を社名に冠するなど地域に密着した社風で知られる同社は、その豊富な製品群を、町内の自社工場で製造している。



### 老舗製薬会社はいち早く生活習慣病に注目

同社は1887（明治20）年、田原本町薬王寺にて個人事業として興った家庭用配置薬製造業を礎とする。現在ほど医療が充実していなかった当時、家庭用配置薬は非常に重宝され、右肩上がりの成長を遂げた同社は、戦後間もない1947（昭和22）年に法人化を果たした。

しかし今から30年ほど前、家庭用配置薬の売上に翳りが見えはじめ、危機感を抱いた前社長の森田昌宏氏（現会長）は、生活習慣病の予防につながる抗コレステロール薬や滋養強壮剤、健康ブームをとらえた健康食品（サプリメント）の開発にいち早く注力。薬局に対し営業活動を行うなど、配置薬以外の分野への販路拡大を急ぎ、自社通販など事業の多角化に取り組んだ。

### 「切れ味鋭い」「選べる」風邪薬の開発

複数の生薬を配合し作られる漢方薬は、一般的に、慢性的な病気や複数の病状に対し効能があるとされる一方で、西洋薬に比べ即効性が弱いと言われる。そこで同社は、伝統的な漢方処方や生薬に西洋薬の成分を加えることで、「切れ味鋭い」風邪薬の開発に努めている。

創意工夫は製品ラインナップにも及ぶ。熱がある、鼻水が出る、頭が痛いといった、風邪の個別症状に応じて、顧客が「選べる」風邪薬を開発。顧客が手に取りやすいよう、パッケージデザインには「どんな症状に効くか」を明記するよう心掛けた。

こうした努力が実を結び、同社のお客さま相談センターには、「薬王さんの薬はよく効く」「やっぱりこの薬でないと」など嬉しい声が寄せられ、社員全員で共有し業務の励みとしているという。



風邪の諸症状に  
応じたきめ細かな製  
品展開と、効能を  
分かりやすく伝え  
るパッケージが特  
徴的な同社の風邪  
薬。  
(写真は一例)

## 「薬王ウォームズ研究所」の立ち上げ

様々な一般用医薬品や医薬部外品を製造するうち、統一したテーマに沿って製品を投入する「ブランド戦略」の重要性に気付いた社長の市川重則氏（58歳）は、スタイルジャパン研究所代表で薬剤師の川野正彦氏の協力を得て、自社ブランド「薬王ウォームズ研究所」を立ち上げた。「ウォームズ」という言葉を冠したのは、「体を温め、血流を良くすることが、健康を増進させ、ひいてはあらゆる病の予防につながる」という東洋医学の思想を、ブランドの統一コンセプトとするためだ。

同社は、奈良県が推進する「奈良くらしくす」や、「TEIBAN 展」といった取組にも積極的に参加。そこで製品がバイヤーの目に留まり、東京丸の内のライフスタイルショップなどへの販売にもつながった。

## ストーリー性を重視した製品展開

自社ブランド立ち上げの意図を「体の『冷え』などを原因とした血流の悪さは、頭痛や肩こり、腰痛や腹痛などの不快症状のほか、生活習慣病をはじめとした万病のもととなっている。こうした悩みを取り除きQOL（生活の質）を高める製品を世に送り出す」ことだと語る市川社長は、ストーリー性を重視した製品展開を念頭に置いている。

例えば、健康のために家庭で実践しやすい薬湯に注目し、伝統処方に基づく10種の生薬を配合した「薬王の薬湯」。この製品の最大の特長は、生薬の成分が入浴時の「温浴効果」を高めると同時に、良い香りが「リラックス」を促し、いっそ

う血流を良くする点。冷え症に悩む顧客からも高い評判を得ている同製品は、昨年、奈良県により「奈良の贈り物」10選の1つに認定された逸品である。

市川社長は「奈良県は『薬』発祥の地。また、生薬の原料として重用される奈良県特産の『大和当帰』は、研究によりその優れた品質が証明されている。奈良県に伝わる良いものを、その背景も含めて製品化していきたい」と想いを口にする。



「薬王ウォームズ研究所」ブランドで展開する商品例。ヤマトトウキはじめ生薬100%の薬湯（左）、ショウガエキス含有したサプリメント（中）、ビャクダンの香りが心を解きほぐすにおい袋（右）。ライフスタイルショップの東京丸の内店やグランフロント大阪店でも販売され人気を集める。

## 「笑顔で健やかな毎日」への貢献を目指して

高齢化が進む現代社会。誰もが元気に長生きしたいと願うが、そのためには、普段から健康を維持し、病気を予防するための自助努力が欠かせない。「江戸時代に始まった家庭用配置薬は、医療の未発達な時代に、自分たちの健康を自分たちで守るために発達したシステム。これは今でいう、セルフメディケーションに通じるものがある。当社はその精神に立ち返り、人々の健康に貢献していきたい」と市川社長は語る。

伝統を大事にしながら、新しい時代の感性を取り入れた新製品を開発し続けている同社。「苦勞して開発しても売れる製品は5つに1つ」というが、明確なコンセプトに基づくストーリー性を重視した製品展開、伝統に裏打ちされた確かな技術に支えられ、同社は今後更なる飛躍を遂げようとしている。  
(太田宜志)